

市民の声とインターネット

吉村順子

junko@suehiro.nakano.tokyo.jp

APC コミュニケーションセンター

8月30日より北京市怀柔県で開催されている「第4回国連世界女性会議NGOフォーラム」は5日目を迎えました。私はいま、Association for Progressive Communications(APC :進歩的コミュニケーション協会)というNGOのボランティアスタッフとして、第3ビジネスセンターとプレスルームにあるインターネットコミュニケーションセンターで働いています。

APCは15日までの全会期中「ウィメンズ・ネットワーキング・サポートプログラム」の一環として、無料のインターネットサービスを参加者に提供しています。私は「ユーザーサポートとトレーニングチーム」の一員なのですが、じつはほとんど英語が話せません。でもアカウント発行カウンターに控えていると、ユーザーからSOSのコールが来ます。「私はあまり英語が話せませんが」と断りながらいっしょに端末の前に行き、何をしたいのが見極めます。「 がしたいんですね? 」と確認してマウスを持つと、あとは言葉はほとんど不要です。それどころか「junkoの説明は日本語でもよくわかる」とスタッフ仲間からは大ウケ。説明しているときは半分以上コンピュータとネットワーク用語を使っているわけだからそんなものかな? と悪びれずにブロークンな英語で日々10人以上の日本語のわからない人たちに、電子メールやワードプロセッサの使い方を教えています。

すでにアカウント発行数は1300を越えました。NGOフォーラムの参加者数が35,000人といわれていますから、全体の数パーセントの人がインターネットに触れていることになります。100台以上ある端末は朝9時から夕方6時くらいまでふさがりっぱなし。日中はウェイティングリストに10人以上名前が並ぶといった盛況ぶりです。

エアコンのないコミュニケーションセンターは信じられないくらい蒸し暑さですが、人も機械もよく耐えています。サーバーのUNIXマシンもエアコンのない部屋のすみにごちゃっと固められて扇風機で冷されているという、日本にいるときは考えられない劣悪な環境です。

ここに通ってくる日本人女性も日を追うごとに増えており、日本の女性がコンピュータやネットワークを活用するようになってほしいと思う私としては、うれしい限りの毎日です。

このインターネットコミュニケーションセンターには、各国のAPC会員とパートナーネットワークの中心的女性が40人集まって一緒に仕事をしています。全員の話せる言語を合わせると、

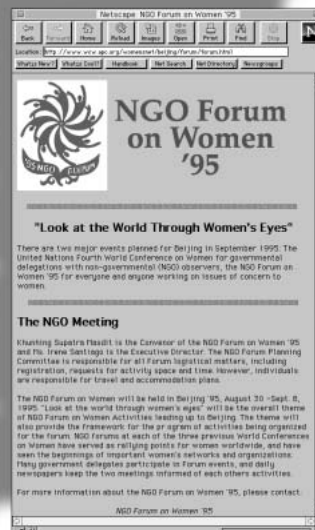
なんと20か国語。仕事の合間や食事のときに、少しずつそれぞれの活動について聞くようにしています。

APCはアメリカのIGC(Institute for Global Communications)にWomensNetを作り、Webでこの世界女性会議をはじめとする情報を提供しています。またオーストラリアではWomenZnetという女性のためのコンピュータネットワークがすでに作られました。

これだけインターネットが自由に使えるようになったのですから、その昔、草の根BBSが数多く作られたように、これからは日本にもインターネットリンクを持ったさまざまなテーマ別のネットワークができてもおかしくないでしょう。非商用でも経営がなりたち、社会的影響力を持ったインターネットプロバイダーがきっと作れると思います。

家族から離れ、24時間自分のために使えるチャンスを一時ですが与えられたいま、そうしたネットが必要と思う人を1人でも多く増やしていきたいと切に考えています。北京世界女性会議奮戦記(!?)はWOMの日本語ページ(<http://www.suehiro.nakano.tokyo.jp/WOM/Japanese/index.html>)でご覧ください。

自転車通勤も苦にならない怀柔(Huairou)の澄んだ空の下より。



◎<http://www.wcw.apc.org/womensnet/beijing/forum/forum.html>



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp